

上宮聖德法王帝說

139

3091









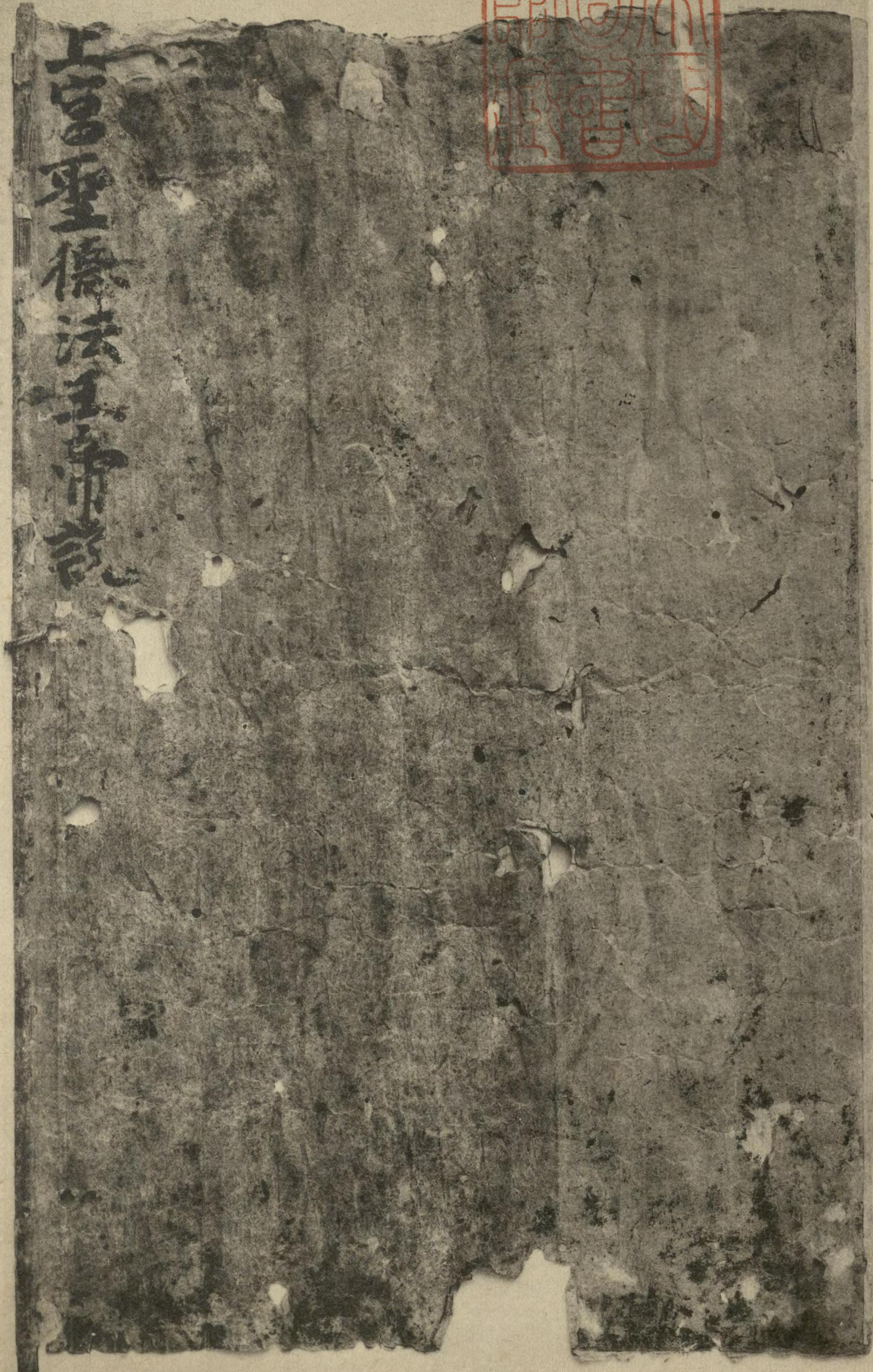


139-3091





古宮聖德法王帝說





上宮聖德法王帝說

伊波礼池邊雙觀宮治天下橋豐日天皇娶庶人

人王為大后生兒庶人豐聰皇聖德法王

次久米王 次殖粟王 次茨田王

又天白王娶我伊奈米宿祢大臣女子名伊志支那郎女生兒

多米王 又天白王娶葛木當麻倉首名比里古女子任比十郎女

生兒宇麻呂古王 次須加互古女王

此王亦祭伊勢神前 至千三天白王

合聖王兒

王子也 品聖德法王娶膳部多夫古臣女子名菩岐美郎生

兒春米女王 次長谷王 次久波大女王 次波止利女王 次三枝王

次伊止志古王 次麻呂古王 次馬屋古女王 已上八人

又聖王娶我馬古神大臣女子名員古郎女生兒山代大兄王

此王有賢尊之心棄身命而愛

已上四人



此王有貨尊之心棄身命而愛

又聖王... 已上四人

又聖王... 此王有貨尊之心棄身命而愛... 已上四人

人民也後人與父聖王相濫昨也

又聖王娶尾治王女子位奈部... 次早海女王

合聖王兒十四王子也... 次早海女王

次麻呂古王... 次尾治王

聖王麻光多米王其父池邊天皇... 聖王女穴太部間人王

生兒佐爾女王也... 聖貴嶋宮治天下阿米久尔於志波部友廣

皇... 娶檜前天皇女子伊斯比女命生兒他田宮治天下天皇怒

那久良布乃多麻斯支天皇... 又娶宗我福目足大臣女子古

多斯... 命生兒伊波利池邊宮治天下橘豐日天皇... 妹少治田

宮治天下止余美氣加志支夜比賣天皇... 又娶友多斯比賣

同母弟宇阿尼命生兒倉橋宮治天下長谷部天皇... 聖王伯

聖王



姊穴太部間人王聖王

右五天皇無難他人治天下也但倉橋弟四

少治田宮邸宇天皇之世，上宮鹿戸豐聰可命與大臣共輔天下，政

而興隆二寶，起元興天四皇等，寺制爵一，二級大德，少德大仁，少仁大禮

大信小信 大義少義，大智少智

池邊天皇皇后穴太部間人王出於鹿穴之時，忽產上宮王，命幼少聰

敏有智，至長大之時，時聞人之自言而辨其理，又聞一智八故，号曰庶

戶豐聰八可命，池邊天皇其太子聖德王，甚愛念之，令住宮南上

大殿，故号上宮王也。上宮王師高麗慧慈法師王命，能悟涅槃常

住五種佛性之理，明開法苑三車，權實二智之趣，通達維摩，不思

議解脫之宗，且知經部，廿隆婆多兩家之辨，亦知三玄五經之旨，並明

天文地理之道，即造法苑珠林七卷，号曰上宮御制，疏太子所問之

義，師有所不通，太子夜夢見金人來教，不解之義，太子寤後，即能

義師有所不通，太子夜夢見金人來教，不解之義，太子寤後，即能



義師有西不通太子夜夢見金人來教不能之義太子寤後即命

義師有西不通太子夜夢見金人來教不能之義太子寤後即命

之乃以傳於師亦領解如是之事非一二可太子起七寺四天皇寺法隆

寺中宮寺攝寺蜂丘寺并彼宮賜池後寺葛木寺賜葛木臣

代平年四月十五日少治田天皇請上宮王令講勝鬘經其儀如僧也諸王公

王及長連公民信受無不嘉也三箇日之內講說訖也天皇布施口上

王物糶唐國捐保郡佐勢地五十町代聖王即以此地為法隆寺地也

今在播磨田三百餘町有慧慈法師賣上宮那制衣疏還歸本國流傳之關王

平年二月廿二日夜半聖王薨逝也慧慈法師聞之奉為王命

講經教願日逢上宮聖必欣所化吾慧慈慈來年二月廿二日死者必

逢聖王面奉淨土遂如其言到明年二月廿二日發病命終也

池邊大宮治天下天皇大御身勞賜時歲次丙午年亡於大玉天皇身

太子而擔願賜我大那病大平飲坐故將造藥師像作仕奉詔也

當時崩賜造不堪者少治田大宮治天下大玉天皇及東宮聖德太子

當時崩賜造不堪者少治田大宮治天下大玉天皇及東宮聖德太子

當時崩賜造不堪者少治田大宮治天下大玉天皇及東宮聖德太子



當時前賜造不堪者少治田大宮所定大玉天皇及東宮聖德太子

命受賜而歲次丁卯年任奉

右法隆寺金堂坐樂師像光後銘文即寺造始緣由也

法興元世一年歲次辛巳十二月鬼前大后前明年正月廿二日上宮

法王枕病弗愈干食王后仍以勞疾並着於床時王后王子等及臣

同皆深怖愁毒共相敬願你依三寶當造釋像尺寸玉身其家

此願力轉病返壽安住世間若是定業以背世者往登淨土早

昇妙果二月廿二日美百王后即世翌日法王登遐美末年三月中如願

敬造釋迦尊像并快侍及莊嚴具竟乘斯敬福信道知

識現在安隱出生入死隨奉三王紹隆三寶遂共彼城普遍示

道法界合識得脫苦緣同趣菩提使司馬鞍首止利佛所造

右法隆寺金堂坐釋迦佛光後銘文如件

釋曰法興元世一年此能不知世但案帝記云少治田天皇之世東

宮既而豐聰可命大臣宗茂馬子宿禰共奉三寶而建立三寶

今格是二箇中其佛之

今故東國佛之

精曰法興元世一年此能不知世但案帝記云少治田天皇之世東宮既而豐聰可命大臣宗茂馬子宿禰共奉三寶而建立三寶



宮庶戶豐聰可命大臣宗茂馬子宿祢共平章而達立三寶

精曰法興元也

宮庶戶豐聰可命大臣宗茂馬子宿祢共平章而達立三寶

始興大寺故曰法興也世世此即銘云法興元世一年也後見人若可

疑年另此不然也然則言一年字其意難見然所見者聖王

穴太部王薨逝辛巳年者即治田天皇御世故即指其年故云一年

其无異趣鬼前大后者即聖王母穴太部間人王也云鬼前者此神

也何故言神前皇后者此皇后同母弟長谷部天皇石寸神前宮

治天下若疑其姊穴太部王即其宮坐故稱神前皇后也言明年者

即王年也二月廿一日关西王后即世者此即聖王妻膳大乃自也二月

廿一日者壬午年二月也翌日法王登遐者即上宮聖王也即世登

遐者是即死之異及也故今依此銘文應言壬午年正月廿二日聖

王枕病也即同時膳大乃自得勞也大乃自者二月廿一日卒也聖王

廿二日薨死也是以明知膳夫人先日卒也聖王後日薨死也則證歌曰

式部式上長信申乃長豆甲四六下多義及床之母乃長乃



我九留我乃止美能并乃美豆伊加奈久尔多義豆麻之母乃止美乃并  
能美豆是歌者膳夫人卧病而将臨没時乞水然聖王不許遂  
夫人卒也即聖王誅而詠是歌即其證也但銘文意顯夫人卒日也  
不注聖王薨年月也然諸記文分明云壬午二月廿二日甲戌夜半  
上宮聖王薨逝也山生入死者若其往及所生之辭也三王者若疑神  
前太后上宮聖王膳夫人合此三也 斯歸斯麻宮治天下天皇  
名阿米久尔意斯波喬友比里尔波乃弥已等娶基奇大后名伊  
奈米是后女名吉多斯比弥乃弥已等為太后生名多至波奈等已  
比乃弥已等妹名等已弥居加斯友移比弥乃弥已等娶波娶太后弟  
名字阿尼乃弥已等為后生名孔部間人云王斯歸斯麻天皇王之  
子名基奈久羅乃布等多麻斯友乃弥已等娶麻妹名乃已弥  
居加斯友移比弥乃弥已等為太后坐宇沙多宮治天下生名尾治  
王多至波奈等已比乃弥已等娶麻妹名孔部間人云王為太后坐瀆

王多至波奈等已比乃弥已等娶麻妹名乃已弥



王多至波奈等已比乃於已昔更度少以子... 邊宮治天下生名等已乃... 奈大女即為后歲在辛巳十二月廿一日癸酉日入孔部向人母王前明年二月廿一日甲戌夜半太子崩于時多至波奈大女即悲哀嘆息白畏天之雖恐懷心難止使我大王与母王如期從遊痛酷无比我大王所告世間虛假唯佛是真其法謂我大王應生於天壽國而彼國之形眼所正者歸因面像欲觀大王往生之狀天皇聞之懷狀一告曰有一我子所格誠以為然勅諸采女等造繡惟二張畫者東

王多至波奈等已比乃於已昔更度少以子... 邊宮治天下生名等已乃... 奈大女即為后歲在辛巳十二月廿一日癸酉日入孔部向人母王前明年二月廿一日甲戌夜半太子崩于時多至波奈大女即悲哀嘆息白畏

天之雖恐懷心難止使我大王与母王如期從遊痛酷无比我大王所告世間虛假唯佛是真其法謂我大王應生於天壽國而彼國之形眼所正者歸因面像欲觀大王往生之狀天皇聞之懷狀一告曰有一我子所格誠以為然勅諸采女等造繡惟二張畫者東

而彼國之形眼所正者歸因面像欲觀大王往生之狀天皇聞之懷狀

一告曰有一我子所格誠以為然勅諸采女等造繡惟二張畫者東

惟其賢高麗加西溢又漢奴加已利令者標部奈久麻

右在法隆寺藏繡帳二張從着龜背上文字者也更不知者之

卷奇 蘇我世 弥字 或當賣音也 已字 或當奈音也 至字 或當知音也

白畏天之者 天即亦治田天皇也 太子崩者 即聖王也 從遊者 死也

猶云天耳 天皇聞之者 又亦治田天皇也 令者 猶監也

天皇聞之者 又亦治田天皇也 令者 猶監也

天皇聞之者 又亦治田天皇也 令者 猶監也



白皇天之者

天壽國者

猶云天可

天皇間之者

又少治曰天皇也

令者

猶監也

上宮時臣勢三枝大夫歌

伊加留我乃正美能乎何波乃多般婆許當和何於保支美乃祢奈

和須良穀米

美加祢乎須多婆佐美夜麻乃阿遲加氣尔比止乃麻字之志和何

於保支美波母

伊加留我乃已能加支夜麻乃佐可留木乃蘇良奈留許等乎

支美尔麻平佐奈

丁未年六七月蘇我馬子宿祢大臣佐物部室屋大連時大臣軍

士不尅而退故則上宮玉璽四玉像達軍士前檣云若得此大

連奉為四玉造寺尊重供養者即軍士得勝取大連訖依此

伊加留我乃正美能乎何波乃多般婆許當和何於保支美乃祢奈

連奉為四玉造寺



即造難波四天王寺也。聖王生十四年也。

連奉為四王造寺。集...

即造難波四天王寺也。聖王生十四年也。

志美嶋天皇御世。代午年十月十二日。百濟國王明王始奉度也。

像經教并僧等。勅授獲我稻目宿祢大臣令興隆也。

夜寅年燒戒佛殿佛像流却於難波堀江。少治田天皇御世。

丑年五月。聖德王与嶋大臣共謀達立佛法。更興三寶。即准

此行定爵位也。七月立十七餘法也。

飛鳥天皇御世。美和年七月十日。獲我豐浦乞食大臣兒入唐

蘇我即坐於伊加香加宮山代大兄及其昆弟等。合十五王子等

十口走裁也。

天皇御世。己巳年六月十一日。近江天皇。生十一年。致於林太

以明日其父豐浦大臣子孫等皆裁之。

志歸鳥天皇台天下州七年。乙代廿二年。十和年。冒前陵檜前坂合出也。



志歸鳴天皇治天下卅七年

乙代廿二年

十三年四月前陵檜前坂合出也

池田天皇治天下十四年

己巳年

表在

池田天皇治天下三年

丁未年四月前秋七月葬向內磯長中尾山

倉橋天皇治天下四年

壬子年十月崩實為鳴大匠所葬也  
陵倉橋出也

小治田天皇治天下卅六年

戊子年二月前陵大野出也  
或之內志奈我山田寸

上宮聖德法王乙云法王壬申午年壬午年二月廿二日薨逝也

生卅九年 小治田宮為東宮也

古志川內志奈我思也

傳得僧相慶之



和刀法隆寺勸學院文庫



和功法隆寺勸学院文庫

唐武春三月沙門尼善信白言清遠住持并今臺浦寺也

豐浦大凡

惟古天覽之印信十年法成拜也

王親善軍士位其以法成拜也

王親善軍士位其以法成拜也

王親善軍士位其以法成拜也

王親善軍士位其以法成拜也

王親善軍士位其以法成拜也

王親善軍士位其以法成拜也

王親善軍士位其以法成拜也

王親善軍士位其以法成拜也







## 知恩院藏上宮聖德法王帝說解説

上宮聖德法王帝説は、現存最古の聖德太子傳にして、記事實質にして信すべく、他に所傳なき異聞舊記を存して正史の闕を補ふべく、上代研究の資料として價値多きものなるは世の周く知る所なり。

京都知恩院所藏の古寫本一卷は、卷子本にして、紙の表紙を附し、紐なく、白木の軸をつけたり。表紙は今は大部分剝落せるが、もとは褐色にして光澤ありしもの如く、左端に竹を込め、表題は「上宮聖德法王帝説」と墨書せり。この表紙は甚古色あれども、或は最初のものならざるべく、表題の文字は、更に後に加へたるもの如し。本文は白楮紙五葉を繼ぎて書寫せるものにして、紙の大きさ、縦八寸八分、横は第一紙一尺六寸五分、第二紙及第三紙一尺六寸九分、第四紙一尺七寸、第五紙七寸六分あり。第五紙の終は天地を斜に截りて軸に附すべくせり。紙に欄界を施さず、行數字數を定めず、天地にもほとんど餘白を剩さず、筆に任せて書したれば、行の方向正しからず、その間隔均一ならざる所多く、紙の繼目に跨れるところあり。この本、破損虫損少からざるを以て、全部に（但、裏書ある部分を除く）裏打を施して修補を加へたるが、裏打の紙は、巻尾に於て、もとの紙よりも五寸三分長くして、その部分の中央や、左に「和務法隆寺勸學院文庫」と墨書せり。この修補は、江戸時代に加へたるもの如し。

この本、末尾の餘白の中央に本文とは別筆にて「傳得僧相慶之」とありて古く僧相慶の手に在りし事を示せり。相慶は、法隆寺所藏大般若經の跋に「長寛二年甲申八月六日酉時書寫畢法隆寺之五師大律師相慶之」と見ゆる相慶と同人なるべく、さすれば法隆寺の僧にして平安朝の末に世に在りし人なり。この相慶の筆蹟の右下に淡墨にて草名を署せるあり。いまだ何人なるかを詳にせざれども、これ亦この本の舊藏者たりしこと疑なく、その書風より觀れば、平安朝の人なるべく想はる。相慶との年代の前後は未だ確實ならざれども、名を署せる位置よりすれば、相慶よりも前なるが如し。この草名の左に紙端に接して二つの朱印あり。一は「欣賞」、一は「徹定珍藏」とあり。これ共に鵝飼徹定の印にして、この本その儲藏に屬せしを知るべし。徹定は、知恩院の貫主たり、幕末より明治にかけて古寫經の蒐集につとめ、古經題跋等の著あり。古寫本を模刻せし事も少からず。この本巻頭内題の下方にも亦三個の朱印あり。「古經堂藏」「法隆學問寺」及「勸學院經藏印」の文あり。古經堂は即徹定にして、勸學院は法隆寺中の一院なり。かくてこの本は、古く法隆寺の住侶に傳はりしが、後法隆寺勸學院の文庫に入り、その後（明治維新の頃か）寺門を出でて徹定師の藏に歸し、その寂後、知恩院の所藏となりしものなるべし。猶、この本巻頭の紙端下方に、淡墨の文字の殘缺の如きもの見ゆるは、其の形、巻末の草名に似たるものあるを以て想へば、かの草名を署せる人、この本文第一紙と表紙との縫際にも自己の名を署したるにあらずやと想はる。この本は明治三十六年四月國寶に指定せられたり。

この本書寫の年代は明ならざれども、書風字體等より觀れば平安朝中期を下らざるものなるが如し。而して、本文の傍に附せる假名はハワ（母）オチ（叔伯）オサタ（乎沙多）ヲホ（大）の如き假名遣の誤あれど、字形古體を存し、本文と同時にあらずとも、甚しく年代を異にせるものにはあらずるべし。又、處々に墨にて文字を訂し又は書加へたる所あり。多くは字傍の假名と同筆なるが如しと雖、まゝ別筆とおもはるゝも混ぜり。全文に施せる句讀點返點連讀符は假名と同時のものと同筆なる。又、破損の爲缺けたる文字を補へる所あり。複製本第一張裏第二行の終に妹穴穗部間の五字を補へるは、その文字甚古く見ゆ。複製本第一張裏第八行末の生の字、第二張表面第二行末の手島女王の四字、第二張裏第十二行末の之の字の下半、第六張裏第三行の細註右行の崩の字の下半以下、及同左行の陵の字などは破損せる箇所に紙を補ひてその上に書せるものにして、これらは後世のものなるが如し。猶、破損磨滅塗抹等によりて文字のまぎらはしきものを擧ぐれば、複製本第一張裏第二行の終の破れたる箇所の右の縁にはマイアナロの假名、半缺けて半存せり。同第三行聰の字の右にはサトの字あり。同第六行倉の右にクあり。第二張裏第三行最後の字はもと岐なりしを政に改めたり。第三張裏第八行最初の昇の右はシメ上なり。第五張裏第八行第五字は、もと尔と書きて乎と改めたるなり。第六張裏第一行治天下の下は冊一とありしを墨を加へて消せるなり。



この本第四紙の紙背に裏書あり。複製本第五張表第八行より第六張表第三行にいたる十八行の裏面にありて、全部一筆にして本文とは筆蹟を異にせり。中に「承曆二年戊午南一房寫之眞曜之本」と見えて、承曆二年に書寫せる書より引用せる文ありと想はるれば、それより後のものなる事明なれど、猶平安朝を下らざるものなるが如く、本文に淡墨にて間々書入を加へたと同人の筆ならんか。この裏書の部分は裏打を施さざれども、上下兩端に紙を加へて修理したれば、紙端の文字の隠れたるあり。複製本裏書の部裏面第五行と第六行との間の最上端に存する日の字の如きは、全く隠れて見る事を得ず。

本書は奈良朝以前の舊記古傳によりて編述せるものにして、記紀の傳へざる所を傳へたるのみならず、また之と所傳を異にし、しかも上宮記元興寺緣起等極めて古き記録と一致するものあれば、古代史研究には缺くべからざる資料たり。且又、天壽國曼陀羅銘、三枝大夫の歌など、推古時代の文章歌謡のこの書によりてはじめて知らるるものありて、古文學研究の資料としても尊重すべきものなり。而して、今世に傳はれる諸本としては、群書類従本あり、狩谷掖齋の考證を加へたる證註本あり。平子尙の掖齋の書に更に校註を補へる補校證註本あり。これ等諸本の根源は何れも法隆寺本たりと推知せらる。されば、この知恩院所藏本は現行諸本の原本といふべきなり。而してこれ等の諸本何れも原本と多少の相違あるは、春日政治氏が諸本と對校せられし校訂法王帝説によつても明なりとす。その中、原本と差ふ所最多きは類従本にして、掖齋本之につき、平子本は最原本に近けれども、猶意を以て改めたる所あり、又多少の誤脱あるを免れず。春日氏の本は、直に原寫本より謄寫せるものなれども、謄寫版を以て印刷したれば、猶あがぬふしなきにあらず。殊に原本の字形曖昧にして讀解に異説あるべきものに於て然り。又本文に附せる假名の如きは、諸本或は之を省き或は之を改めて、一も原形を傳ふるものなし。その全部を寫眞版とし、原本の面目をさながら傳ふるは、今回を以て最初とす（佐佐木信綱氏所藏の古筆切に法王帝説の斷簡あり。平安朝末又は鎌倉初期の書寫なるべく、本書の一異本として觀るべきものなれど、今僅に二行を存するに過ぎざるを遺憾とす。今存するは、本會複製本第五張表第一行最後の「波」より次行の「孔部間人」に至る部分にして、この斷簡には「廿一」の下「日」なく、すべて二十四字なり）。

今、知恩院藏本を本會にて複製するに當り、すべて實大に撮影し、本文は勿論、用紙空白の部もことごとく收めたれども、巻尾の、裏打の紙のみの部分は、之に存する文字のみを出して、白紙の部分は省略せり。裏書は別に撮影して、最後に附せり。

昭和三年四月五日

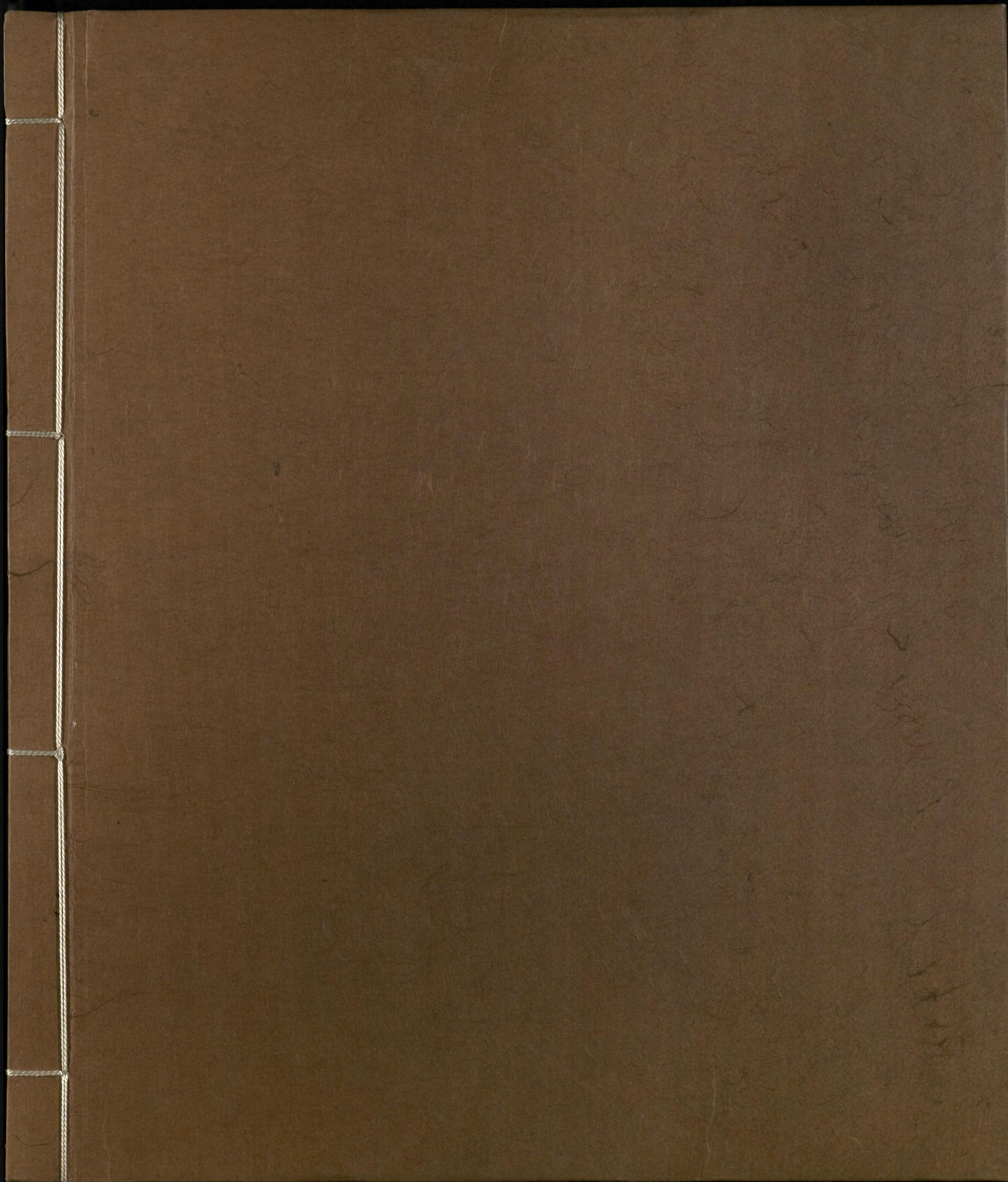
橋本進吉



139  
309

昭和三年四月廿五日印刷  
昭和三年四月廿八日發行  
(非賣品)  
發行兼印刷者 古典保存會  
東京市下谷區上野公園東園  
右代表者 七條 愷  
東京市神田區花房町四番地  
印刷所 金屬版印刷所  
東京市神田區花房町四番地  
古典保存會事務所  
電話下谷六七八八番  
振替口座東京四四九四八番







# Kodak Gray Scale

- A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

inches 1 2 3 4 5 6 7 8  
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

## Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

